

令和6年 9月 2日

東松島市議会議長 小野 恵章 様

（会派名） 松桜会

代表者氏名 櫻井 政文

会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目（該当を○で囲む）

調査研究費、 研修費、 広報費、 広聴費、 要望・陳情活動費、 会議費

2 活動名称： 松桜会視察研修

3 実施期日： 令和6年7月31日（水）～8月 2日（金）

4 活動成果：

①小布施町では、「移住・定住」施策について研究。小布施町U1J地域担い手支援を目的とした助成金や起業支援事業補助金等各種補助金制度で移住定住施策を推進。また移住相談センターでは移住に関する問い合わせに対応している。小布施町は北斎館、栗菓子店やフローラルガーデン等でまちづくりを展開し、交流人口の拡大に尽力している。小布施のまちの魅力そのものが移住者増加の大きな要因となっていることを理解した。

②県立長野図書館では、「信州学び創造ラボ」を開設し、「共知・共創をコンセプトに学びを体感できる場所作りを行なっていることに興味をひかれた。

道の駅「信州新町」では、こんにゃく、西山大豆、鹿肉ジビエ等の地元特産をクローズアップして販売に尽力。また長野といえば、やはり蕎麦で店内は蕎麦を食する人でごった返してしていた。本市の道の駅でも長野の蕎麦に匹敵するような人気メニューを提供することに期待したい。

③須坂市では、「移住・定住」施策について学ぶ。須坂市の移住・定住施策の特徴は、移住者の受け入れに協力してくれている企業が30社あり、移住希望



者がこの企業から選択してくれればスピーディーな移住が可能になるというところだ。

須坂市では、行政担当の職員2名で移住相談をかなりの頻度で開催し、対応していて本気度を感じた。この姿勢は大いに見習いたいものだ。

5 添付書類： 会派報告書

長野県小布施町行政視察報告書

1 研究の目的

長野県の中でも移住定住政策で先駆的存在である小布施町について研究し、東松島市の移住・定住政策に資することを目的にする。

2 研究事項及び質疑事項

①移住・定住施策について

- ・小布施町 UIJ 地域担い手支援を目的とした助成金について
起業支援事業補助金、空き店舗等活用事業補助金、新規就農支援補助金
- ・空き家改修等補助金について
空き家活用ローン、空き家等改修補助金、三世帯住宅整備補助金
市街化調整区域住宅新築助成金
- ・移住相談センターでの移住定住コーディネーターの役割
関東圏からの問い合わせが多いため地元での対応が主である。

②子育て制度やその施設について

- ・子育て支援の具体例について
子育て支援施設（エンゼルランドセンター）、保育園・認定こども園、
放課後児童クラブ、乳幼児健診・子育て教室、
- ・子育て支援金について
出産祝い金・入学祝い券、福祉医療費給付事業（18歳以下）

3 調査概要

(1) なぜ、小布施町に2000年頃までに年間100万人を超える観光客が訪れる街になったのか

1. 第1ステージのまちづくり 4つのポイント

①北斎館などの美術館の開館

昭和51年に小布施に残された葛飾北斎の肉筆画を一堂に集めた

②「北斎館」を開館、地場産業・栗菓子店の活躍

お客様を迎えて栗菓子の老舗は、小売・飲食サービスを始めた

③町並修景事業

- ・景観に対する町民意識の向上
- ・昭和61年環境デザイン協力基準を制定
- ・平成元年住まちづくり相談所を開設
- ・平成2年うるおいのある美しいまちづくり条例を制定
- ・平成4年住まいづくりマニュアル広告物設置マニュアルの発行
景観賞の制定

④花のまちづくり

- ・町並修景事業で「景観」を意識した町民が歩調を合わせるように「花」によるまちづくりを展開
- ・さらに「フローラルガーデン」開園、「花仲間コンベンション・全国ガーデニングサミット」の開催
- ・丹精込めた家庭の庭を開放する「オープンガーデン」は2000年に始まり現在約130軒に拡大している。

(2) 小布施まちづくり「第2ステージ」交流と4つの協働との関係性

- ①町民との協働
- ②大学・研究機関との協働
- ③志の高い町外企業との協働
- ④地場企業との協働

(3) 小布施まちづくり「第3ステージ」未来の担い手の育成

- ①協働人材との接点づくり
小布施若者会議
小布施町地域おこし協力隊
高校生を対象とした1週間のサマースクール
若者によるまちづくり 遊びからスポーツ振興

【所 感】

何故、小布施町に移住定住者の注目が集まるかの理由が理解できた。

担当の方の説明では特別な制度や都会での広報活動を実施しているわけではなく、口コミや観光での体験により移住を決めているとのこと。移住の決め手は、小布施町の魅力に尽きるとの感想であった。

街づくりコンセプト、住民の人柄、優しさ、地域全体で歓迎してくれる雰囲気があるとのことである。

東松島市でも協働のまちづくりの基本理念を再認識して補助金制度に頼ることなく、地域全体でウェルカムの気持ちを醸成していくことが、移住者の心に届くと感じた。

【県立長野図書館及び道の駅「信州新町」視察報告書】

1、長野県立図書館

県立長野図書館には、過去から現在に至るまで、信州の近代110年間にわたって集められた70万点におよぶ本や資料を擁している。また、図書館に來なくても使えるデジタルアーカイブやwebサービスも整え、県民の利便性に資するようにしている。

県立長野図書館の理念は、共に知り共に創る「共知・共創の広場」を目指すを掲げている。その実現の場が「信州・学び創造ラボ」で、誰にでも開かれた空間で対話しながら新しい価値を創造するとしている。

ひとりで静かに本を読み調べる、また、皆で対話したり、ワークショップやものづくりを楽しんだりと多様な空間と居場所を提供している。自由と自治を重要視した公共の空間を創っている図書館である。

改装される東松島図書館にもしっかりとしたコンセプトの元に新しい図書館作りを目指してほしいと感じた。

2、道の駅「信州新町」

長野市内中心部から車で約30分の所に立地している。地元生産者による山菜やきのこ、こんにゃく等山の幸で品揃えしている。また、「鹿肉まる餃子」、「新町梅酒」などオリジナル商品の開発にも力を入れている。さらに郷土食や信州の味に徹底したこだわりを保持している。特に信州そばをメニューの柱として多くの客でにぎわっていた。

11月27日にオープンする本市の道の駅には、目玉となるような人気メニューや特産品を取り揃えてほしいと希望するものである。

長野県須坂市行政視察報告書

●移住・定住施策について

須坂市は長野県北部にある市で、人口 48,492 人で面積は 149.8 km² 甲信越地方に位置し、明治から昭和初期にかけては製糸業で栄えた。また、蔵の町としても知られ巨峰の産地としても有名。1954 年（昭和 29 年）に市制施行。ふるさと納税が年 40 億円あり、ふるさと納税係を設置し 5 名体制により対応している。4 年連続社会増で転入者が増加しているが、本市のように給食費の補助や医療費の補助は一切行っていない。

須坂市の移住・定住策は、「移住支援信州須坂モデル」により、仕事と住居の一括サポートでストレスフリーの移住へと繋ぎをしている。須坂市には移住者の受け入れに協力してくれている企業が 30 社あり、この企業から選ばればスピーディーな移住が可能である。相談を重ねて納得できる移住を目指している。

モデルの流れとして、①市のホームページ須坂市移住応援サイト「スザカでくらす」で情報発信し、②東京・大阪・愛知で開催する移住相談会に参加し、情報や求人内容を聞く。また、須坂市では独自で月 1 回（銀座 NAGANO）にて面接を行っている。③移住体験ツアーで見学・面談でイメージをつかみ④企業での面接試験を受ける。⑤現在働いている職場に退職の意向を伝え、それまでの仕事の整理や引継ぎを行い⑥引っ越しの準備にはり、空き家バンクや不動産屋を利用して家探しを行い、家が決まったら保育園等を決める。⑦移住にむけ引っ越し、就業となる。

所感

須坂市は転職移住としてサポートをしており、行政と町が一体となり取り組まれている。他自治体では地域おこし協力隊等を有効的に活用して移住定住に取り組まれているが、須坂市は担当職員 2 名で対応され移住相談会のほか月 1 回の銀座での面接にも対応している。本市におきましても、一次産業に関わらず担い手不足の解消に繋がるよう転職移住のサポートにも尽力いただけるよう希望する。